

## 4-2 災害教訓伝承手法の企画・実施

### (1) 伝承活動展開シナリオの検討

災害教訓伝承活動を実際に展開していくためには誰が（実施主体）、誰に（訴求対象）、何を（伝承の素材（内容））、どのように（伝承手法）、何のために（目的・必要性）伝えるのかを明確にしたシナリオを検討する。

このシナリオは、実施主体間や協力者との調整を踏まえて、極力具体的なものとするのが望ましい。

シナリオを実際に作成する際には、①伝承活動の必要性、②シナリオ展開の方向性、③テーマを設定する。次に、表 8 を埋める形で、伝承すべき相手（訴求対象）と伝承内容のマトリックス表を作成する。

**表 8 伝承手法活動展開シナリオの作成表**

		伝承内容			
		主なテーマ① (例：霞堤と水防技術など)	主なテーマ②		
意識レベル	低い	伝承すべき相手 (訴求対象)	子ども	手法： 実施メニュー： 担い手：	
			子育て世代 働き盛り世代 中高年世代		
			地域リーダー		
			高い		

また、このシナリオ作成後、後に詳述するように個々の伝承活動の企画・設計を行うこととなるが、その際、関係者間の調整等の理由により、当初のシナリオで想定したものと異なる場合も生じる。そのため、個別の伝承活動を行うときに臨機応変に取捨選択等が可能となるよう複数のシナリオを作成しておくことが望ましい。なお、伝承活動を実施する過程で、予定通りに進まない場合には、必要に応じてシナリオの見直しを行う。

本書で設定されている9地域のうち、今年度計画から実施にいたった3地区について作成した伝承活動展開シナリオ例を次ページに示す。

表 9 伝承活動展開のシナリオー伊那市地域における例

伝承活動の必要性	①伊那市から三峰川上流域の地域では昭和 33 年美和ダム完成以前には出水期になれば水害に見舞われる河川の氾濫常襲地域であり、現在は森林事業も衰退し上流域は荒廃し、その事実も風化している。しかし天竜川にかかわる伊那小学校を中心とした総合学習が醸成されている。 ②このような災害の頻発箇所には「・島」の地名が多く、水害より地域を守るための水神様や弁財天が祀られ、「さんよりこより」の祭りや、「霞堤」の築堤などにより伊那地域は先人の知恵や努力で守られている。しかし災害の減少とともに知恵は風化しつつある。 ③36 災害では甚大な被害が生じ、57 災、58 災の被害も甚大であった。平成 18 年 7 月の豪雨災害では 36 災害以降の大きな被害が生じ、特に上伊那の辰野町～伊那市では水害、土砂災害による地域の脆弱性が顕在化し、伊那市や地域住民が一体となった災害に強い地域防災力の強化の方策が必要である。
シナリオ展開の方向性	①過去の治水史や災害復旧事業の詳細記録は、関係機関(国、県事務所など)に資料保管される。「三峰川みらい会議」では霞堤、三峰川フォーラムの開催や、天竜川ゆめ会議による定期的な活動が行われており、地域の関連団体と伊那市の協力強化によるイベントなどの企画が必要である。 ②地域リーダーの強化、住民の防災意識高揚の視点から、伊那市の災害発生地区の公民館や集会所などを訪問し懇談会、ワークショップなど住民参画的な要素を踏まえた企画を行う。また合わせて災害体験者(被災住民、災害教訓伝承者)へのヒアリングを行う。 ③上記①②について伊那ケーブル TV、LCV などの積極的な活用を促進。
テーマ	川に関する積極的な市民・教育活動の素地を活かしながら、三峰川上下流間における災害特性の違いや対策の歴史を共有するとともに、地域特有の治水技術を主体として、水防に関する知識の定着を促進し、地域の歴史・文化に対する認識を醸成

低い ↑ 意識レベル ↓ 高い	伝承内容		
	三峰川の霞堤と水防技術	流域を知る、川の働きを知る	
	<p><b>○霞堤や水防技術の存在を知る機会の提供</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習ゾーンの創設(古くからの水防工法や生活の知恵を学ぶ)</li> <li>・ 災害体験者(語り部)、技術者、工事関係者へのインタビュー映像(30分程度)の学習ビデオを制作</li> <li>・ アニメや霞堤の絵本製作(「さんよりこより」「水神」「弁財天」などの素材あり)</li> </ul> <p>(市民団体、教育機関(小中学校等)、国など)</p>	<p><b>○災害の実経験を振り返り、洪水時の水や土砂はどこからやってくるのかを学ぶ総合学習の実施</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 18 年 7 月豪雨災害での実体験を子どもたち自らが振り返り、とりまとめを実施</li> <li>・ 災害科学系の学会などと連携しての活動</li> <li>・ 災害体験「子ども文集、絵画」展の企画</li> <li>・ 上流域へ水や土砂の流れをたどる遠足(災害跡地、美和ダム)</li> </ul> <p>(教育機関(小中学校等)、教育機関(大学等)、国など)</p>	
	<p><b>○霞堤の文化と水防技術の変遷を学ぶ出版物や情報の提供</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 霞堤とその周辺めぐりのウォーキングブックを編集・出版</li> <li>・ 「祭りと水害」などの言われを紹介したパンフレット</li> <li>・ 見学コースの設定と日帰りツアーの企画実施</li> <li>・ 新聞などへの連載、市町村広報への連載</li> <li>・ TV や FM ラジオでの情報提供</li> </ul> <p>(市民団体、教育機関(大学)、マスコミ、国など)</p>	<p><b>○上流部での水の生い立ち、川の流れ、土砂の流れから流域の機能を学ぶイベントの実施</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間伐と「炭焼き」体験イベントを通して流域を知る</li> <li>・ 知識の普及を目的に三峰川みらい会議などの試みを通じた学習機会の提供</li> <li>・ 防災上の課題学習と合わせた景勝地の見学(写真、絵画、花見、紅葉)</li> </ul> <p>(市民団体、市町村、マスコミなど)</p>	
伝承すべき相手(訴求対象)	子ども	子育て世代 働き盛りの世代 中高年世代	地域リーダー
	<p><b>○過去の災害経験から今後の地域の水防・防災を考える勉強会・ワークショップ・懇談会などの実施</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水防の担い手に対して水害の歴史や地域文化を継承するワークショップの開催</li> <li>・ 地域リーダーとしての語り部の発掘、「語り部の話を聞く会」の開催</li> <li>・ 36 年災、57 年災、58 年災の災害体験者「語り部の記録収録」、被災地の「災害教訓伝承冊子編集」</li> </ul> <p>(市民団体、市町村、国、マスコミなど)</p>		

表 10 伝承活動展開のシナリオ—駒ヶ根市～中川村地域における例

伝承活動の必要性	①駒ヶ根市から中川村の地域では、度重なる災害との闘いの中で、「理兵衛堤防」や「小和田の越流堤の築堤」などの災害から地域を守る知恵が蓄積されるとともに、「石神の松」や「小鍛冶の矢文」などの災害にまつわる多くの信仰や言い伝えも潜在している。 ②中央アルプス側では山地からの土砂流出と河道侵食により、この地域に特有の田切地形が形成されており、かつて災害が常襲していた頃には、田切の最下段は水田として利用されていたが、近年では、河道整備に合わせて河道近傍まで市街化が進行しており、若年層の意識の低下も相まってこうした災害の歴史が忘れ去られつつある。 ③平成18年7月の豪雨災害では、河床に埋没していた理兵衛堤防の一部が出現し、天竜川の流水の激しさや先人の水防に関する知恵が改めて見直される中、市町村や教育関係機関が協力し、災害により築かれた進行・知恵・地域文化を継承していく方策が必要である。
シナリオ展開の方向性	①理兵衛堤防や小和田の越流堤などを通じて、先人の知恵や災害の脅威を伝えるイベントや出版物などの企画が必要である。 ②地域の古老と若年層世代の交流形成、住民の防災意識高揚の視点から、天竜川周辺現地の伝承素材も積極的に活用しながら、地域に語り伝わる信仰や文化を考える懇談会、勉強会などのイベントを企画する。 ③上記①②について、中川村、駒ヶ根市と教育機関、国土交通省が連携しながら推進する。
テーマ	地域特有の地形や水害にまつわる信仰・暮らしの知恵を素材として、意識が薄れつつある若年世代を中心に川に親しむ機会を提供する手法を展開しながら、水防や水害に関連する地域の歴史・文化に対する認識を醸成

低い ↑ 意識レベル ↓ 高い	伝承すべき相手 (訴求対象)	伝承内容	
		理兵衛堤防の歴史の伝承	石神の松周辺に残る信仰と水害との関わり
		<p><b>○洪水と人の暮らしを地域のモノ、人から知る機会の提供</b> 〔実施メニュー(例)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理兵衛堤防の築堤の歴史と発掘調査による知見について現地と資料館の双方で学ぶ学習ゾーンの創設(中川村西小・東小)</li> <li>松村理兵衛にまつわるインタビュー映像と、川にまつわる信仰の紹介、語り部の映像(30分程度)の学習ビデオを制作</li> </ul> <p>(市町村(教育委員会)、教育機関(小中学校等)、国など)</p>	<p><b>○石神の松と周辺の歴史について学ぶ制作物や語り部と現地を歩く企画の実施</b> 〔実施メニュー(例)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本、紙芝居、人形劇などの製作企画</li> <li>スタンプラリー—現地参加型イベントの実施</li> </ul> <p>(市町村、国、マスコミなど)</p>
		<p><b>○理兵衛堤防から天竜川の治水を学ぶ出版物やイベントの実施</b> 〔実施メニュー(例)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理兵衛堤防とその周辺めぐりのウォーキング指南本を編集・出版</li> <li>ボランティアによる中川村と天竜川の歴史案内ツアー</li> <li>理兵衛堤防と水神信仰題材とした見学コースの設定と日帰りツアーの企画・実施</li> <li>新聞などへの連載、市町村広報への連載</li> <li>履歴個所(スポット)から製作する絵画、写真コンクールなどの企画</li> </ul> <p>(市町村(教育委員会)、教育機関(大学)、国、マスコミなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の祭りや水害のいわれを示したパンフ・冊子の企画</li> <li>天竜川の写真集(季節、スポット、文化、歴史、災害、山、畑、川、祭りなど)を扱った出版企画</li> <li>事務所発行の定期刊行物の連載の一コーナーとして知恵、地域文化の紹介</li> </ul> <p>(国、教育機関(大学)、市町村(教育委員会)など)</p>
		<p><b>○災害の認知と適切な行動を考えるシンポジウムや地域に残る災害教訓伝承勉強会の実施</b> 〔実施メニュー(例)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水防の担い手へのワークショップと勉強会の企画(川の水位に気を配るなどの平常時からの習慣を学ぶ勉強会の実施、河原の中で自分だけの量水標(水位の目印)を見つける現地企画の実施)</li> <li>民俗学や郷土史に詳しい有識者と勉強会を実施</li> </ul> <p>(市町村(教育委員会)、教育機関(大学)、市民団体、国など)</p>	

表 11 伝承活動展開のシナリオー飯田市地域(松尾・伊賀良・上久堅)における例

伝承活動の必要性	①飯田市松尾・伊賀良・上久堅地域は、下流部に天竜川沿いでも有数の景勝地鷲流峡を擁する氾濫原であり、洪水時には水位堰上げが生じることによりしばしば浸水被害が生じていた。そのため災害の痕跡を示す地名や巨石などが存在する。 ②36 災害、58 災害では甚大な浸水被害が発生し、特に 36 災害では天竜川沿い(本川氾濫)と市街地側(中小河川氾濫、土石流)で異なる様相の災害を経験した人々が存在する。 ③近年は河川整備の効果により外水氾濫は起こっていないが、58 災害で浸水した河道沿川にまで市街地の拡大が進展し、被害ポテンシャルが増大している。このため飯田市、水利・水防組合、飯田美術博物館などが連携して、防災体制の強化や、薄れつつある災害の記憶を呼び戻し住民の危機管理意識の醸成を図る方策が必要である。
シナリオ展開の方向性	①過去の治水史や災害復旧事業の詳細記録は、関係機関(国、県事務所など)に資料保管される。飯田美術博物館はこれまでも防災啓発につながる様々な活動を行っており、また、水防組合の活動も活発であることから、これら地域の関連団体と飯田市の協働によるイベントなどの企画が必要である。 ②地域に潜在する災害体験談の浸透、住民の危機管理意識高揚の視点から、過去の大きな被害の状況や体験談を題材とした、座談会、オープンハウス、教育活動の展開や、防災訓練の企画を行う。 ③上記①②について、飯田市を始めとする関係機関が相互に協力するとともに、飯田エフエム放送などの積極的な活用を推進する。
テーマ	繰り返り起こった災害の痕跡や多くの災害体験者を素材として、災害要因と絡めて地域の特徴を理解させる手法を展開しながら、災害に立ち向かう知恵を継承

低い ↑ 意識レベル ↓ 高い	伝承内容	
	既往災害(昭和36年災害)体験の振り返りと次世代への伝承	繰り返される災害の証
	子ども	<p><b>○地域で起こりうる災害の危険性を知る機会の提供</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水筋の変遷や災害の歴史を通して「島」などの地名と人々の生活の歴史を知る</li> <li>・ 松尾地区にある弁天様などの災害教訓伝承のポイントを加えた企画</li> <li>・ 語り部とともに学ぶ小学生の現地見学テーマの立案</li> <li>・ 36 年災当時の写真と現況の比較映像などの変遷ビデオ(30 分程度)を学習教材化</li> <li>・ 災害体験者のインタビュー映像を加えて、水の恐怖と恵みについて、体験談をベースにお話創作とキャラクターを用いた人形劇・アニメーションを制作・上映</li> </ul> <p>(市町村(教育委員会)、教育機関(小中学校等)、水利・水防組合、教育機関(大学)、国など)</p>
	子育て世代 働き盛りの世代 中高年世代	<p><b>○36年災を振り返り体験談を掘り起こし、次世代へ継承するパネル展・公民館巡回展・座談会の実施</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験談の掘り起こしをかねて巡回展とあわせて座談会を実施</li> <li>・ 36災害を中心とした飯田市内での災害と歴史の探訪ツアーの企画実施</li> <li>・ 公共施設やスーパーマーケットでオープンハウスを実施し、災害体験談の紹介や災害教訓を周知</li> <li>・ 川の変遷と語り部の記録集作成、水防組合に伝わる「絵干し」の伝承</li> </ul> <p>(博物館、市町村、国、マスコミなど)</p>
地域リーダー	<p><b>○継続的な教訓伝承の取り組み制度の創設</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 36災害、58 災害で被災した住民の「語り部の記録収録」、被災地の「災害教訓伝承冊子誌」編集</li> <li>・ 神社、氏神の祭礼の紹介、保存会活動の支援、企業防災への醸成</li> </ul> <p>(市町村、民間、国など)</p>	<p><b>○既往災害を想定した防災訓練・水防訓練時での取り組み支援</b> [実施メニュー(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既往災害の跡地、石碑、遺構を訪ねる現地見学会の実施</li> <li>・ 企業の水防訓練と講習会の開催支援(水防組合員)</li> </ul> <p>(水利・水防組合、市町村、国、マスコミなど)</p>